『天気を味方に』
—安全に楽しく過ごすための気象情報の活用方法—

浅田佳津雄（株式会社ウェザーニューズ）

1. はじめに

昨今、極端に暑かったり、寒かったり、異常な雨量であったり、といった現象に代表される通り、日本のみならず全世界的に、「気候変動」「気候危機」といわれています。これはまさに、待った無しの喫緊の問題であるといえます。そこに対して、日本政府も CO2 排出削減や、ゼロ・エミッションを実現するための政策を打ち出し、また各企業においても、持続可能な社会の実現に向けて、様々な取り組みを実践しています。

このように気候が大きく変わっている一方で、天気予報においても、ここ数十年で大きく変わった＝進化した。テレビやラジオで大雑把な予報しか確認出来なかった時代から、今では、従来のテレビやラジオに加え、手のひら（スマートフォン等）で、自分がいる場所の、5 分先の天気予報が確認出来るようになったり、また、動画チャンネルへアクセスすれば、いつでも天気予報の動画解説番組も見ることが出来たり、AR を活用した浸水被害をシミュレーションすることが出来たり、と数十年前からは想像も出来ない程に進化しています。過去と今で大きく異なる点は、自分で、自分が必要な情報を確認出来る点です。

そんな、とても便利になり、様々な情報が入手出来るようになった今、大事なことは、大量の情報の中から、**正しい情報を取捨選択し、判断して、行動する**、ということ。デバイスやアプリケーション、データが多くなればなるほど、便利になるが、それらを適切に自らの行動に結び付けるスキルや、活用する習慣が無ければ、意味がなく、効果も発揮されません。

「いざ」という時に、適切な行動を行い、自分の命は自分で守れるようにするためにも、平常時にも気象情報を活用し、習慣化し、正しい情報を取捨選択して、判断して、行動する、ことが出来るようにしておくことが、今まさに求められていることと言えます。

2. 株式会社ウェザーニューズについて

ウェザーニューズについて簡単に紹介させて頂きます。1986 年に『船乗りの命を守りたい』という創業者の想いからスタート。創業者が、創業前に商社に勤めていた時に、自らが担当する木材船が爆弾低気圧により海難事故にあい、乗組員 15 名の命が奪われた。その事故がきっかけで、「予め気象条件が予想出来ていたら、15 名の命を失わずに済んだ…」、という想いからウェザーニューズの創業へ繋がっています。

そこから 35 年、「安全性」の確保から始まった気象ビジネスも、今では「経済性」や「生産性」「計画性」といった観点に広がり、業界も海運業界から、航空業界、道路/鉄道業界、流通業界、インフラ業界、スポーツ業界、環境市場、等、と幅広い業界や産業で気象情報を活用して頂くようになっています。

詳しくは、https://jp.weathernews.com/ をご覧ください。

3. 『スポーツ気象』について

ウェザーニューズでは、2015 年にスポーツ気象チームという新しい部門を設置し、「スポーツ気象」という新たな分野の立ち上げにチャレンジをしています。具体的には、大きく 2 つのテーマを取り組んでおり、①スポーツ選手（スポーツをする人）に対して気象情報を提供し、安全に、そして良い準備を行い最高のパフォーマンスを発揮するための支援、②スポーツ大会の主催者に対して、安全・円滑に大会運営を行えるよう気象面から支援する、といったことを行なっています。

そこで提唱しているのは**『天気は変えられない。しかし、予め天気を知る（想定する）ことで、準備の質が高まります。心の準備が出来ます。安全を確保し、パフォーマンスを最大化するために気象情報を活用する』**ということです。

前述の通り、「いざ」という時に、自分の身を守るためにも、日常的に気象情報を活用し習慣化することが重要であるが、日常的に行われるスポーツにおいて気象情報を活用することは、スポーツ自体を安全に楽しむことにも繋がるが、更に、その先には、「いざ」という時に情報の適切な取捨選択、判断、行動にも繋がる気象情報の活用レベルを引き上げられると考え、積極

的に「スポーツ気象」という分野の立ち上げにチャレンジしています。

4.　『スポーツ気象』の具体的取り組み事例

前述の通り、スポーツ気象は大きく「アスリート向け」「大会主催者向け」の 2 つに分けられる。今回は、「アスリート向け」のスポーツ気象についてご紹介致します。いずれの場合も、大事なことは事前の**『準備』**です。

（1）過去の分析

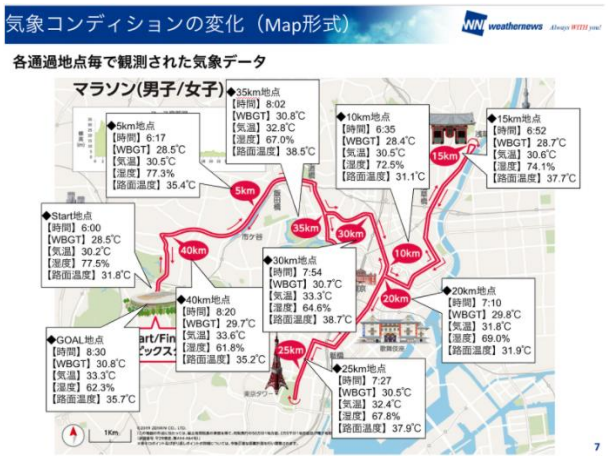
大きな大会や、レースの場合、数年前に開催日程が決まるケースが多いです。我々は、その日程が決まった時点で、まず行うことは、**『その開催場所、開催日時の“過去”の気象コンディションはどうだったか？』**ということを調べることから始まります。

最低でも 10 年前まで遡り、多い時は 20 年前まで遡り、過去のデータを分析します。それにより、過去の実績（事実）として、晴れる確率が〇〇%だった、仮に雨が降った場合、どの程度の雨が降るか？気温は暑くなった場合には何度になるか？風向きはどちらから風が吹くことが多いか？等々の分析を行います。この分析により、ある程度、大会や試合の当日の気象コンディションを想定するところから始めます。

（2）現地調査

次に行うことは、大会やレースが行われる 3 年前、2 年前、1 年前の同日、同時刻近辺で、現地に出向き、実際の現地を調査することです。前述の（1）の通り、ある程度、過去のデータから気象コンディションを想定はしていますが、実際に現地に行って、それを確かめ、より精度の高い分析を行います。

マラソン競技の場合、本番〇年前の同日に、スタート時間にスタート地点に出向き、そこから、選手の走るスピードを考慮しながら移動し、5km 毎に気温、湿度、WBGT、風向風速、路面温度、等を計測します。



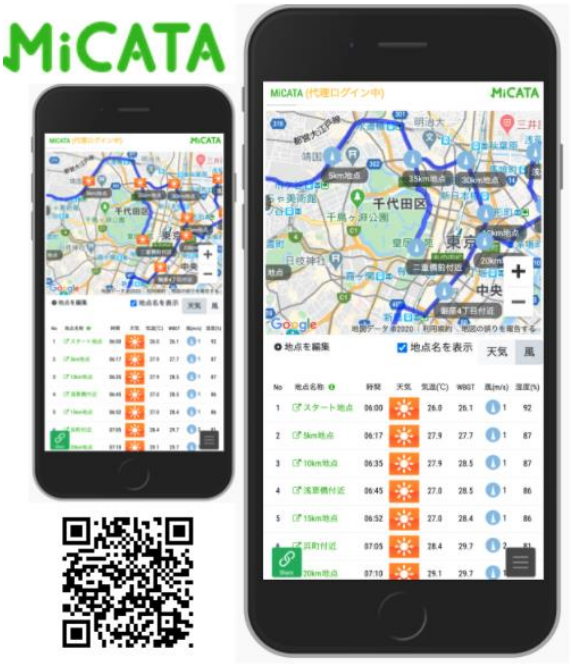
また、移動中はコースの様子を動画で撮影します。気温等の数値データだけでなく、実際のコースの様子を映像で見ることで、どこが日向で、どこに日陰があるのか？どこが登り坂なのか？等の情報を視覚的に得て、シミュレーションをする際の質を高めることを手助けします。

それらの情報を基に、コースの中で、気象的に注意すべき区間や、ポイントとなるエリアを事前に共有することで、選手達のレース戦略を考える材料として活用します。

このような取り組みを、数年間にわたり、数回実施し、気温等の数値データのみならず、画像や動画のデータを蓄積し、事前に本番に近いリアリティあるシミュレーションを行い、レース戦略を考えることを支援しています。

（3）予報の提供

本番が近づいてくると、2 週間前から予報の提供を行います。一般的な天気予報ではなく、こちらも選手がレース戦略を考えたり、準備がし易くなるような伝え方を行います。



ウェザーニューズでは、MiCATA（みかた）というアスリート向けの気象サービスを開発しており、その MiCATA を通じて、選手やチームスタッフに気象情報を提供しています。図にある通り、通常の天気予報とは異なり、マラソン向けであれは、コースマップ上に、選手の通過時間に合わせて、天気や風向等が確認出来るようになっています。特に風向に関しては、北風、南風といった方角で伝えられても、選手はイメージし難く、「追い風」「向かい風」「横風」が視覚的に伝わる方がイメージし易くなると考え、このような伝え方を採用しています。

このように、事前の分析・調査から、直前の予報の提供まで、2 時間程度のレースのために数年前から準備を行い、選手が少しでも良い準備が出来て、安心して本番に挑み、最高のパフォーマンスが発揮出来るようサポートするのがスポーツ気象です。

今回、ご紹介したのはマラソン競技の例ですが、マラソン以外の競技でも、各競技の特性に合った事前の分析・調査や、予報の提供の仕方を行っており、2015 年からスタートしたスポーツ気象も、今では数多くの競技、日本代表チームを支援しています。

5. さいごに

このような「スポーツ気象」の取り組みは、日本代表チームだけでなく、アマチュアチームや、子供にまで広がっています。我々の想いは、スポーツをする人達が、気象情報を活用することで、安全にスポーツを楽しめ、良い準備をして競技力を上げることです。さらには、スポーツを通じて、気象情報を活用することが習慣化されることで、気象災害等が発生し、「いざ」という時も慌てることなく、適切に情報を入手し、判断、行動することが出来るようになり、自分の命は自分で守れることに近づくと信じています。是非、スポーツに限らず、日常的に準備の大切さを認識し、気象情報を活用することをご提案致します。